

入退院時支援部会時実施報告

1. 入院時における情報連携の取組

平成 30 年度入退院時支援部会で作成・試行した「入院時情報連携シート」をケアマネジャーに周知し活用していく。

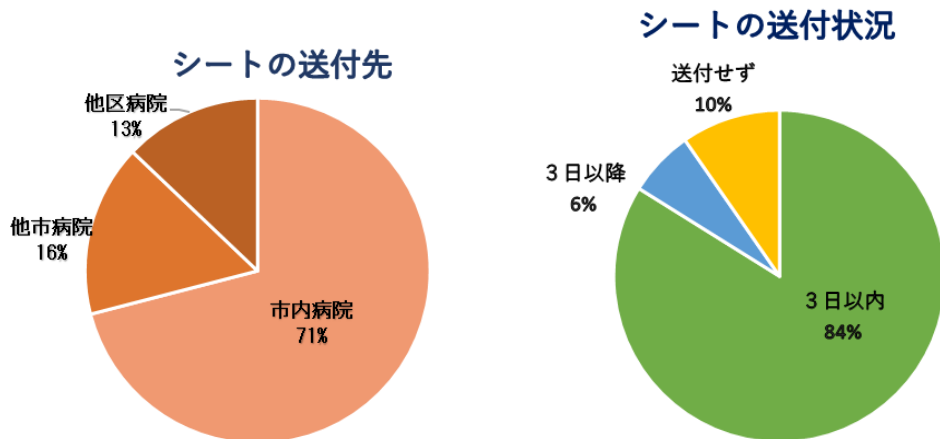
活用範囲：武蔵野市内→市外近隣区市

使用者：市内居宅介護事業所→市外の居宅介護事業所も含む

<入院時情報連携シートの活用状況の確認>

【入院時情報連携シート】管理表を作成することで、どの病院と連携をとったのか、わかるようにする。今年度は、定期的に管理表を集計し活用状況を検証する。

今年 4 月から 9 月までに入院した件数：31 件の内訳



<31 件の活用事例から見えること>

- ・シートの送付先は市内病院が多いが、市外の病院も 3 割ほど活用されている
- ・シートは 84%が 3 日以内に送付されている。
- ・3 日以上かかったり、送付しなかった場合も、先に家族から情報提供がされていたり、電話で連絡するなど、すべてのケースで病院との連携が取れている。

<シートの使用効果>

- ・病院の SW と連携が取れ、細かく連絡が取れ、転院後の対応もスムーズにできた。
- ・病院相談員から快く受け入れてもらい、退院時カンファにつながると確信。
- ・病院側がシートの存在を知っており、入院翌日に情報提供を求められた。
- ・ケアプランの提出も求められることもあり、退院支援につながっている。
- ・救急搬送時に病棟看護師に口頭で伝えたことを、記入して持参したことがあり、作業の手間を感じた。

2. 退院時における情報連携の取組

看護様サマリー：3市（武蔵野・三鷹・小金井）の看護責任者会議で、20年前に作成した看護サマリートのフォーマットが市内9病院でどのように活用されているのか調査。

調査結果

<フォーマットにほぼ変更なし>

白田医院、吉祥寺南病院、小森病院、武蔵野武蔵野赤十字病院、森本病院

<病院機能の特徴からフォーマットを変更>（サマリートの内容は網羅されている）

吉祥寺あさひ病院、武蔵境病院、武蔵野陽和会病院、吉方病院

今後の予定

看護サマリートの活用状況を介護側に調査を実施。

3. 身寄りのない方の入院時の対応について

厚労省が出した、「身寄りがいない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン」を基に、医療側・介護側・行政側の出来ること出来ないことを部会で検討し各々の役割を明確にする。



<各施設での見直し>

- ①身寄りがいない人の意思の確認とその内容の記録方法
- ②意思決定が困難な人への支援の仕組み



医療と介護の連携におけるACPの継続

4. 地域包括ケア病床について

地域包括ケア病床を持つ市内の3病院（吉祥寺南病院、武蔵境病院、吉方病院）が部会に参加。地域包括ケア病床の特性を理解し、入院や転院時の支援に役立てる。